

事業の効果

今回の事業の目的は、認知症により行方不明になられる方の早期発見・保護に役立てることと、地域住民の共助の思いを繋げ高齢者を見守る地域づくりを行うことです。

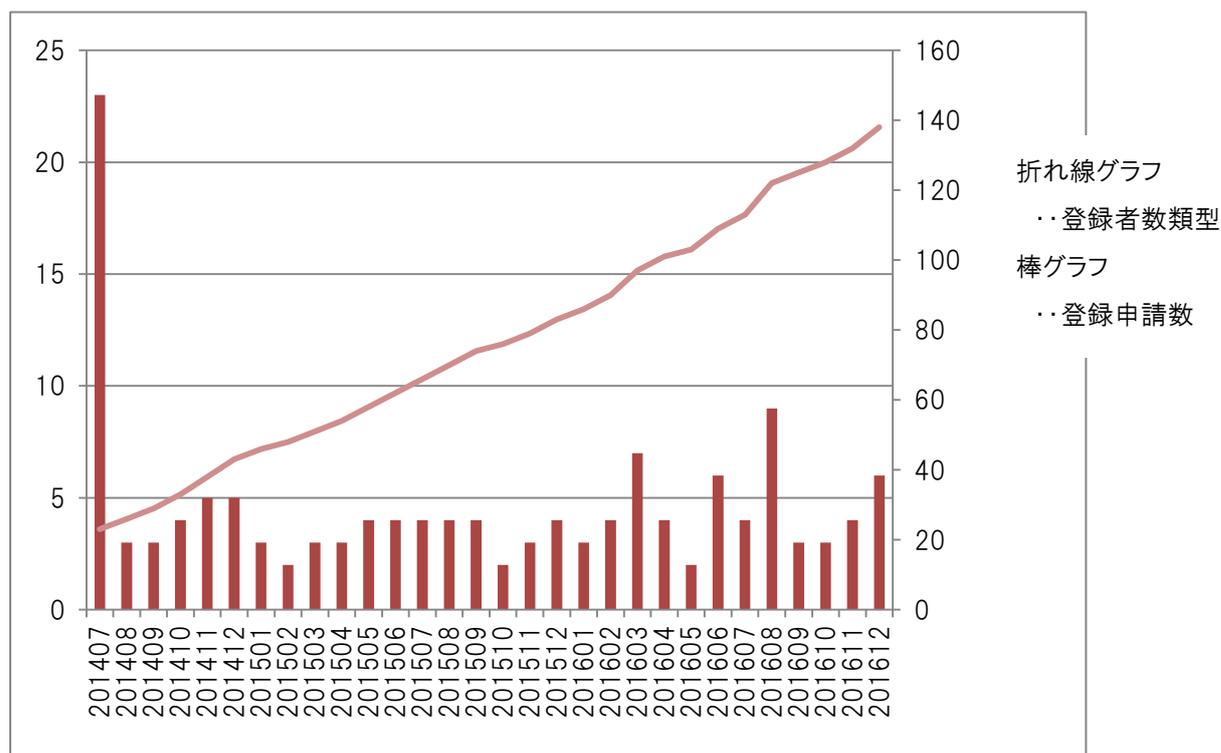
早期発見・保護の効果

事前登録者の増加

今回の事業を開始するにあたり、マスメディアで取り上げられたこと、また地域等で実施した周知活動により認知症の方がいらっしゃる家族の方、また関わりのある民生児童委員やケアマネジャーの方から事前登録に関する問い合わせが増え、142人の方に事前登録していただいています。本市では、事前登録の対象者を「認知症等で行方不明になるおそれのある高齢者」ではなく、「認知症等で行方不明になるおそれのある高齢者や普段一人で行動されることの多い方、独居の方」と日常で不安を感じていらっしゃる方としています。ある日突然事故に遭われたり、道に迷われる可能性が誰にでもあると考え、日常の不安を少しでも和らげられたらと考えたからです。とりあえず、登録しておこうと言う気持ちで登録していただきたい、また認知症の方以外も登録できることで認知症の方が登録しやすくなる旨を地域で説明しています。

【登録人数のグラフ】

※平成28年12月31日現在



地域づくり

行方不明者を早期に発見・保護するには、普段からのさりげない見守りや声かけができる地域、いざと言うときに自分の地域は自分たちで捜索を行うことができる体制づくりを市民主体で行っていただくことが重要です。

しかしながら、認知症サポーター養成講座等認知症の様々な講座を受講されている方は、認知症や認知症の家族の方を支えたいという思いがあるにも関わらず、どのようなサポートを実施しているのか、どの様な地域づくりを実施しているのかまで発展していないのが現状です。このような地域住民のお互いを思いやるを繋ぐことで、市民全員で分かち合うことでお互いを見守れる地域を作りたいと実施した事業でした。

現在、迷い人情報メールも、Bluetooth受信器となる専用アプリも500人を超える方にご協力いただいています。

周知方法の検討委員会開催については、介護に携わる事業所が行方不明者対策に理解を示していただき若手職員の参画の手助けをしてくださいましたし、参画いただいた職員の方も真剣に行方不明対策について考えられていることを感じました。また、若手が少ない介護事業者の若手職員の意見交流の場となり、職場での悩みなどを共有されており有意義な場となりました。

そして、周知活動を行っていく中で老人クラブが、地域が主体となった行方不明者捜索体験を実施し地域づくりについて考える機会としたいと申し出があったことが大きな成果でした。



搜索時の効果

本市では、年間十数件の行方不明者が市に報告されます。向日町署に確認すると市に報告されている以上に道に迷われている方がいらっしやるそうです。まだまだ周知が足りていないことが分かります。

しかしながら、市に報告いただいた行方不明者の方の中には「情報シート」をご覧になった協力団体の方に保護された方や Bluetooth タグの位置情報を搜索の目安にして保護された方もいらっしやいます。

【Bluetooth を利用した行方不明対応 事例①】

認知症のある本人が、夕方になっても自宅に帰ってこないと家族より市役所に相談。同居家族は昼過ぎから体調不良のため休んでいたため、その間に外出した本人に気が付かなかった。

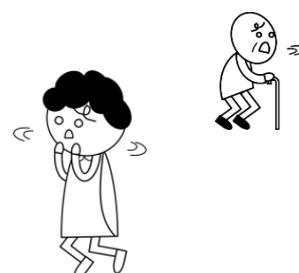
以前にも行方不明で保護されたことがあり、発信器（かえるお守り）を靴に縫い付けていた。家族から承認を得て A 氏の発信器と受信器との感知履歴を確認すると、1 時間前に自宅近くの商店に設置した受信器で感知された履歴があった。受信器アプリの活用を希望されたため「ぶじかえる応援団」にアプリ起動を依頼する通知を送る。

受信器および「ぶじかえる応援団」との感知情報を、連携して搜索にあっていた向日町警察署および乙訓消防本部と共有するとともに、受信器アプリを持った職員が商店街周辺に搜索範囲を絞って搜索にあたった。



【Bluetooth を利用した行方不明対応 事例②】

なじみのお店に行くと言って外出し、いつもなら帰ってくる時間になっても帰宅されていないと関係者から市役所に連絡。発信器（かえるお守り）を持っていることを確認し、B 氏の支援を担っている支援者に承認を得て、受信器の感知履歴を確認。なじみのお店までの通り道にある実証実験用受信器で感知された履歴がなかったことを関係者に伝えたところ、いつもの行動範囲ではない場所に向かった可能性が高いと判断し、すぐに付近の搜索を開始。関係者がいつもの通り道ではない場所を歩く B 氏を見つけて保護につながった。



【Bluetooth を利用した行方不明対応 事例③】

認知症があり一人で自宅に帰れなくなってしまう C 氏が、家族が目を見失った間に一人で外出してしまったと家族より地域包括支援センターに連絡。本人の携帯電話は電池が切れており探索ができなかったが、発信器（かえるお守り）は持っていることを確認し、家族の了承を得て受信器の感知履歴を確認するが、実証実験用受信器に感知された履歴はないため西山に入った可能性は低いと判明。家族より受信器アプリ活用の希望があり「ぶじかえる応援団」のアプリに通知を送り、職員が受信器アプリを持って市内の探索にあたるが、いずれの受信器にも感知されず。夕方になっても保護されず、連携して探索にあたっていた向日町警察署に長岡京市内での感知がないことを報告し、市外に出られた可能性についても検討。同日の深夜に保護された C 氏は、大阪市内に行っていたことが判明した。

【Bluetooth を利用した行方不明対応 事例④】

認知症がある D 氏が、買物先から帰宅しないと家族より市役所に相談。D 氏が持つ携帯電話に関係者から電話をかけ続けたところ、D 氏が電話に出られ、バスや電車で移動中であることが判明。保護しに向かう段取りを組むが、D 氏自身自宅に帰ろうと移動しており、自宅の最寄駅で降りて帰ると話される。連携して探索にあたる向日町警察署と情報を共有し、最寄駅での保護を試み、警官と職員が改札へ向かったところ、自宅付近の実証実験用受信器での感知情報が入る。感知情報を受けて警官と職員が自宅に向かう途中、家族より D 氏が帰宅したと報告がはいり、自宅にて元気な本人の姿を確認。

探索時における最大の効果は、市と向日町警察署、乙訓消防本部が連携をとれ情報共有を行い探索時に協力し合える関係性を築けたことです。Bluetooth タグをお持ちであることで位置情報を共有したり、情報シートをいち早く送信することで保有している情報を共有しています。



行方不明搜索体験

地域が主体となった行方不明者搜索体験は、平成26年度から実施しています。Bluetooth機能を利用した見守り体制を構築後に実施した行方不明者搜索体験は、平成28年10月にこがねが丘自治会で11月に長五小校区地域コミュニティ協議会で実施しました。

【こがねが丘自治会で実施した行方不明者搜索体験】



10月16日に、こがねが丘地区で『迷い人搜索体験』が開催されました。

体験を実施する前に、西地域包括支援センター職員から認知症の説明と声かけをするときの注意事項を聞き搜索体験を行いました。

幼児や小学生20人を含む総勢80人が参加し、行方不明者役3人を迷い人情報メールや情報シート of 情報を基に搜索し、行方不明者に声かけを体験されました。こがねが丘地区では高齢者だけでなく子どもから高齢者までが参加することにより地域の見守り合いの取り組みにしたいと話されていました。

また、こがねが丘地区に、設置されているBluetooth固定受信器を利用し、クイズラリーを実施し、平成27年度に新たに開始したBluetoothを利用した見守り体制の啓発も行いました。

当日は、京都府、京都府警本部、向日町警察署が先進的な取り組みとして見学に来られ一緒に搜索に参加されました。

体験後はグループに分かれ、体験に参加して感じたことを話し合い、それぞれ感想を記入した葉っぱを貼った「こがねが丘みまもりの木」を作成しました。



おかしいなと思ったら
とにかく声をかけてみる

声かけの仕方が
勉強になりました

迷い人も、
おとなも子どもも、
声かけがとても大切

普段のあいさつが大切

地域でこういう機会を
持てたという事が素晴らしい

地域の方々とお話する
いい機会にもなった

検証・実証実験の効果

平成28年度に実施した事業の検証では、市内の商店や事業所の協力を得て実施しました。Bluetooth受信器の設置のお願いをどの商店も快く承諾いただき認知症の方への理解と地域への思いを感じました。

検証に利用した受信器は、実際に行方不明になられた時にBluetoothタグの電波を感知したことで検索範囲を限定することができ、検索に役立ちました。

また、検索時以外も受信情報がサーバに蓄積されていることにより、普段立ち寄られるところ分かるため、家族等から戻ってこられないので心配されて連絡いただいたときには、普段立ち寄られるところに行かれていなことが分かり、早期に検索を開始することができました。

専用アプリを利用したスマートフォン受信器は行方不明者の検索時に多くの受信器が張り巡らせることで早期発見保護することに役立ちますが、固定受信器は普段から受信情報を蓄積することでスマートフォン受信器とはまた違った役割を果たしており蓄積された情報は検索時に役立つことが確認できました。

市内に設置した固定受信器38か所の受信情報

検証にあたり、個人が特定できない状態で受信状況の確認を行いました。

結果、次のことが分かりました。

- 行動時間としては午前と比べて午後に活動されることが多く、午前1時から午後11時まで受信記録がありました。
- 午前1時や3時に受信されている情報から夜中に迷われている方がいらっしゃる分かりました。
- 同じ場所で約1時間ごとに受信されている情報もあり、何度も同じ場所を通られていることが分かりました。
- 市内受信器以外に本市と同じ受信器を導入している伊丹市で長岡京市のBluetoothタグの電波を受信されている情報もあり、多くの市町村で共有できる受信器が設置されることで広域な見守りが可能であることが分かりました。



固定受信器（カバー）の写真
※おじかえる応援団シールつき



実際に設置されている
固定受信器の
写真



38 ページに受信器の通過ログを掲載